

2026 年 1 月 8 日
一般社団法人Jミルク

学校給食牛乳の価値を多角的に捉え直す 領域横断型研究の成果発表、1 月 19 日にシンポ

Jミルクは 1 月 19 日(月)、学校給食用牛乳に関する最新の研究成果を発表するシンポジウムを東京都内で下記の要領で開催します。「学校給食用牛乳の多面的価値を未来へつなぐ―地域が育む子どもの成長と持続可能なフードシステム」と題し、6 人の研究者が講演するほか、酪農、乳業、教育の各分野の専門家も参加してパネル討論を行います。

牛乳・乳製品や酪農乳業に関連する研究者や専門家らで構成する「乳の学術連合」(Jミルクの関連団体)で、子どもの食生活、地域の酪農生産、地域乳業の経営、地域フードシステム、ミルクサプライチェーンといった側面から、さまざまな専門領域に携わる 6 人の研究者が 2 年間かけ「学校給食牛乳に関する領域横断的共同研究」に取り組みました。シンポジウムはその成果を紹介する場となります。

酪農乳業関係者はもとより、食育や給食に携わる学校教育関係者、行政や自治体関係者、その他、食に関連するさまざまな事業に従事される方々など、多くの方に関心を持っていただける内容を予定しています。

記

- 日時: 2026 年 1 月 19 日(月) 13:00 ~ 17:30 (オンライン配信も実施します)
(終了後に情報交換会を予定しています)
- 会場: コングレスクエア日本橋
東京都中央区日本橋 1-3-13 東京建物日本橋ビル 3F ホール
- 参加対象: 酪農乳業関係者、学校教育関係者、学校給食に関わる栄養教諭や栄養士・管理栄養士、行政関係者、メディア、酪農生産者 など
- 定員: 会場 100 名、オンライン 500 名
- 参加費: 無料(シンポジウム、情報交換会とも)
※ご参加・ご取材される方は、女子栄養大学出版部のホームページ
(<https://eiyo21.com/info/38122/>)から申し込みをお願いいたします。
- 主催: 一般社団法人Jミルク
- 協力: 乳の学術連合
- 後援: 農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構、公益社団法人全国学校栄養士協議会、公益財団法人学校給食研究改善協会、畜産経営経済研究会、日本酪農教育ファーム研究会、日本酪農乳業史研究会
- 運営協力: 女子栄養大学出版部

■ 当日プログラム(予定)

<開 会>	
講演① 乳の学術連合「学校給食牛乳に関する領域横断的共同研究」が目指したもの	研究代表者 木村 純子(法政大学 経営学部 教授)
<第一部>	
講演② 学校給食で提供される牛乳の栄養及び地産地消食品としての意義について	野末 みほ(常葉大学 健康プロデュース学部 教授)
講演③ 学校給食用牛乳提供の意義と地域における持続可能な供給に向けた展望	柴 英里(東洋大学 食環境科学部 准教授)
<第二部>	
講演④ 学校給食用牛乳供給システムの持続可能的再構築—関係者の協働を支える制度とは—	清水池 義治(北海道大学 大学院農学研究院 准教授)
講演⑤ 食育連携強化を通じた学校給食牛乳の社会的価値の向上	光成 有香(尚絅大学 現代文化学部 助教)
講演⑥ 学校給食牛乳(学乳)の再定義:テリトリーと地域循環型フードサプライチェーンの構築	木村 純子(法政大学 経営学部 教授)
<第三部>	
講演⑦「学校給食牛乳の再定義」～「一杯の牛乳」が繋ぐ子どもの未来と地域酪農の持続可能性～	前田 浩史(乳の学術連合 乳の社会文化ネットワーク 幹事)
パネルディスカッション	
田畑 修一(たばた牧場)	
久米 克典(中央製乳株式会社 品質管理部 部長)	
福井 みどり(板橋区立志村第三小学校 校長 / 日本酪農教育ファーム研究会 会長)	
柴 英里(東洋大学 食環境科学部 准教授)	
光成 有香(尚絅大学 現代文化学部 助教)	
前田 浩史(乳の学術連合 乳の社会文化ネットワーク 幹事)	
<閉 会>	
<情報交換会>	

詳細は、Jミルクホームページに掲載しています。

https://www.j-milk.jp/news/260119symposium_info.html

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

学術調査グループ 岩本

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 御茶ノ水安田ビル 5 階

電話:03-5577-7494